

YOUTH ユースサービス SERVICE

若者を考える、若者と考える

若者と支援者をつなぐ機関誌
VOL.
16

立ち上がる 若手起業家たち

子どもの貧困と
学習支援フォーラム in 山科





能力を「引き出す」

ダイバーシティ研究所 研究主幹
鈴木 暁子



ここ数年来、民間 NPO の立場で、「ダイバーシティ (人的多様性)」の推進にかかわる仕事をしています。そして、男性だけでなく、女性や外国人など、ひとりひとりが働きやすい職場づくりや就労支援の地域でのモデルづくりに関わっています。また、私生活では息子が所属する少年野球チームで青少年と接しています。こうした場面で感じることは、いままで主な「働き手」とは、みなされてこなかった層、例えば再就職を目指すママ、外国人、若者が持つ豊かな潜在能力です。

ダイバーシティ経営の分野では、こうした人材を「活用する」という発想が大半ですが、これからは、彼らや彼女らが本来備えている能力を「引き出す」、—そのための環境整備が必要であると考えています。ユースワーカーのみなさんが今まで培ってきた経験や若者の主体性を育むユースワークの枠組みが、他の分野に広がることを期待しています。
(京都市ユースサービス協会評議員)

イラスト・厚焼サネ太

14

ユースかわら版
地域で活動中！ ほか

12

青少年活動センターのページ
第23回大会ライブキッズ
右京ふれあい文化会館で初開催!! ほか

10

まあ！すてきな若者施設
今秋も3カ国を継続視察

8

「子どもの貧困」を考えるフォーラムを開催

7

ねっとわーく 勇気の出るライブ

3

特集
立ち上がる
若手起業家たち

[表紙の花]

クサキョウチクトウ

ハナシノブ科の観賞用の多年草。北アメリカ原産。高さ約1メートル。夏、茎頂に総状花序をつける。花色は白・桃・紅紫など。別名オイランソウ。

90th Anniversary

京都 YWCA は 設立 90 周年を迎えます!

1923年に設立された京都 YWCA は、
一人ひとりが大切にされる「共に生きる世界」をめざし、
さまざまな事業やボランティア活動を行っています。
あなたも参加して、いろいろな人々と出会ってみませんか?

私たちは若者の活動を応援しています。

学びの場を提供

- 語学クラス (成人英会話、小中学生英会話、フランス語、タイ語など)
- 社会問題等に関する学習会や講演会

子育て支援と青少年プログラム

- 小学生のための放課後居場所事業
- 未就園児の遊びと親の学びのプログラム
- 親子ライブラリー
- 若者が企画するプログラム
- 女性のための自由なしゃべり場
- 保育サポーター など



多文化共生社会に向けて

- 多言語電話相談
- 日本語学習支援
- 留学生との交流・支援

循環型社会をめざして

- リサイクル・リユースセール (8月を除く第1、第3土曜日)
- バザー (6月と12月の第1土曜日)

100周年に向けて新事業に取り組んでいきます

- サービス付き高齢者住宅事業
- 10代女性のための自立援助ホーム事業
- ふれあいの居場所カフェ事業



一般財団法人 京都 YWCA

〒602-8019 京都市上京区室町通り出水上る近衛町 44
(地下鉄「丸太町」駅から徒歩7分)

TEL: 075-431-0351 FAX: 075-431-0352

<http://kyoto.ywca.or.jp> office@kyoto.ywca.or.jp

開館時間 10:00 ~ 19:30 (利用は21:00まで可)、土曜日は17:30まで。
休 館: 日曜日・祝日



*フェイスブック、ツイッター しています!





立ち上がる若手起業家たち

次世代を担う若者たちの中に「ようし、自ら起業家になろう」と思いきった行動に移る活動的で前向きな若者も目立ってきました。

10年後を見据えて



「ステーキバル開店まで」

プラチナビーフオーナー兼店長 高田大也さん(32)
京都市東山区大和大路四条下ル

今年5月、四条大和大路にオープンしたてのステーキバル「プラチナビーフ」。高田さんは「祇園界隈で一番安いステーキ店を目指しています」と笑顔で話します。

「女性同士で気軽にお肉を食べる店」がコンセプト。約20坪の店内に29席、テラス席もかわいい。お店の看板メニューは独自の仕入れルートで黒毛和牛のステーキ。京野菜を使った野菜のステーキも魅力的だ。

高田さんは京都市内の公立高校出身。国立

大学を目指し予備校へ通っていた頃、焼き肉店「益市」でのアルバイトを経験。高田さんがいた益市は、自営の他に京都市内の飲食店オーナーと関連業者で構成される「TUBASU会」に所属。地域の活性化と社会貢献を目的に活動もしてきました。オリジナル焼酎「TUBASU」の販売では養護学校と連携し、通学生が描いた絵画を



焼酎のラベルに使用。1本仕入れるごとに100円の寄付が積み立てられ、養護学校等へ寄付する取組みをしています。また、年に数回「TUBASU会」主催の祭りを実施。会員等が屋台を出店。その売上げを寄付金として全額福祉に活用しています。(TUBASU会

HP <http://tubasunet/>
「お客さんに喜んでもらえる仕事が面白い。益市は絶対大きくなると思った」。両親の反対を押し切り高校卒業後に飲食業界へ飛び込みました。「自分では周囲と違う進路選択に何の迷いもありませんでした。10年後を見据えていたので」とアルバイトから正社員、そして店長として10年勤務した後に起業へ。インターネットで物件を検索し、自己資金の他に各省



庁からの国庫金の申請などに追われました。現在、高田さんの他にアルバイトが6人。「僕は未経験者を積極的に雇用しています。興味関心がある人は仕事にも没頭してくれる人が

照明芸術にこだわり



でも何でも挑戦したい

多い。彼らのなかから飲食業界を志す同志が育ってくれたら」と話します。そんな高田さんが、現代を生きる若者に伝えたいメッセージとは「自分らしさを忘れず

に、個性を大事にしてほしい。あなたにしか出来ないことがあると思う」。熱いメッセージに彼の人柄が現れていました。(子ども・若者支援室 繁澤あゆみ)

月あかり 村上菜也子さん(36)
京都市東山区大黒町通松原下ル

京阪「清水五条」駅から歩いて5分ほど、ものづくりの若者が集まった築100年の町家長屋「あじき路地」。長屋の大家さんが、空き家を若いクリエイターの応援のために使いたいと考え入居を募集、現在選ばれた15人が軒を並べています。村上菜也子さんが照明作品をつくる「月あかりデザイン研究室」もその一つです。村上さんはもとと京都精華大学で染織の勉強をしていたのですが、イベントで空間演出の手伝いをしたのがきっかけで光の演出に興味を持ち、現在は自らのデザインを和紙に

木版刷りし照明器具を制作しています。2004年には最初の個展を開きました。そして、2008年の秋からお店を始めました。多数のメディアにも取り上げられ、大活躍の村上さん。学生時代はアルバイトをしながら、服飾の勉強をしたり、卒業後にはイベントの手伝いを通してお茶のある空間を演出したりといろいろな事に挑戦したそうです。会社に就職したのとは違って、イベントや興味を持った場所で出会う人との縁がきっかけとなり、沢山の繋がりが、創作活動の基盤をつくったといっています。一人では何も出来ない事を常々実感しているという村上さんは、若い時には興味のある事を何でもやってみて、そこで同世代の人やその道の先輩達に出会って時間を共有し自身の思いをぶつけ、学ぶ事が大切と語っています。村上さんの現在の夢は、特別に漉いた



和紙を使い建築内の空間演出をさせて頂き、光の演出のすばらしさを多くの人にお伝えすること。国内はもちろん海外にも目を向け「さまざまな物を見て行く中で自身が成長し、それが作品にどう影響するのか、どんな作品が作れるのか分らないけれど、それが楽しみなんです」と語っています。若者には好きな事を徹底的に追及することや、先が見えない事を不安に思わず楽しむことの大切さが、村上さんの言葉から伝わってきました。(下京青少年活動センター 岩見晃宏)



行列のできる八百屋

八百屋代表
森田 弘昭さん(33)
京都市上京区西堀川通下長者町上ル

奈良県の八百屋で10年間勤めていた森田さん。「世の中に自分がどれだけ通用するのか?」と考え、10年のキャリアとノウハウを活かし、平成19年に京都市上京区の堀川商店街に八百屋「八百さる」を独立開業しました。熟練の目利きによる品質の良さと安さ、店名に「さる」が付いていることからバナナを年中100円で販売するなど、人柄あふれるサービスを売りに人気店となりました。根強いファンを持ち、売出し日には、商店街に行列ができます。お客さん、従業員、関連業者など含めてみんなを幸せにしたいという思いから、さらなる事業拡大を目指しています。



学生主体の事業運営

PKT代表
松榮 秀士さん(29)
京都市左京区松ヶ崎呼返町



大学生の就職難や離職率の増加から、自ら提供する「つくる力」に着目し、それらを学ぶことのできる環境を作りたいとの思いで、平成22年PKTを設立。中高生向けの個別学習塾や英語塾を通して学ぶ英語塾のほか、村留学やキャンプなどのプロジェクト企画を大学生が主体となって運営する機会を提供し、「つくる」から学べる環境づくりを行っています。継続的な事業運営のためには、相手にとって求められるものを提供し続けることが大切。また、そのような仕組みをつくることのできる人間になってもらいたいと、事業運営しています。

まつげエクステ大好き

日本まつげ美容株式会社代表
永津 美也子さん(35)
京都市中京区錦小路通東洞院東入ル

目標もなく周囲に迷惑と心配をかけていた10代〜20代前半。人との出会いの中で自ら学びたいと決心し、スクールに通う。卒業後、自宅に美容サービス全般を扱うサロンを開業。平成17年京都移転と共にまつげエクステの専門店として方針転換。また、5年後には社会保障を充実させるため法人化へ。技術・品質の高さから口コミで評判が広がり、連日予約でいっぱい。また、日本アイラッシュアカデミーを設立した他、日本まつげエクステ協会の理事を務めるなど普及活動や後進の指導にも力を注いでいます。大好きなまつげエクステとの出会いが、人生の転機になりました。



若者に目立つ社会的起業家

特定非営利活動法人ユースビジョン 代表 赤澤清孝さん

「若手起業家」といえばかつこよく聞こえますが、仕事を軌道に乗せるには、それなりの経験と同志づくり、精神的なプレッシャー、経済的なりiskを感じながらブレずに辛抱強く自己実現を目指すことが肝要でしょう。

若手起業家を支援する京都の特定非営利活動法人ユースビジョン代表の赤澤清孝さんに話を聞きました。

今の社会で若者が

どんな夢を持ち、その実現に向けてどうあるべきか？

たしかに今の若者は、かつての好景気を実感していない、たとえば学生下宿も減ってきた。実家から通うと安くつくが、良い意味の自由と時間が少ない。早めの就職活動にイライラしながら閉塞感が漂う。自分で起業家を目指すにはほど遠い雰囲気だ。趣味をふくらすとか、仲間と将来を語り合い自己実現に向けてボランティア活動を始めるなど、すべき事項はいっぱいあると思う。

赤澤さん世代と今の若者とは環境的にもギャップを感じる

私は38歳だが、中高生の頃はバブルの時代。大学を出たら就職にありつけるだろうくらい漠然



と思っていた。立命館大学時代は大学生協の運営に頭を突っ込んだり、環境問題のサークル活動をしてきた。二年生のとき神戸を震災が襲った。実家が伊丹にあってかけつけた。学生ボランティアの様子を見て京都で何が出来るか、被災地の子どもたちを京都で学習

サポートしたり、京都学生ボランティアセンターを立ち上げた。大学院を出てそれをNPO化し、2005年にユースビジョンを創り代表となった。東北大震災で活躍の場が拡がり何度も東北の被災地を訪問した。今もその活動は続いている。

大阪を中心に行われている若手の企業コンペとは

1995年から毎年一回、大阪や神戸などで企業コンペを開催している。私は審査員だが全国から学生提案も含めてかなりの応募がある。ホームレス支援をして釜ヶ崎のおじさんたちの仕事をつくる若い女性グループのNPO団体や、定時制・通信制の高校生に働くワークショップを開いてビジネスの場を作る。また障がい者施設の作業で付加価値の高いプライダル関連のカードやアクセサリーといった小物づくりをして増収に結びつけるなど、弱者にまなざしをそそいだ社会的な起業家が目立った。近く「エッジ2014」というタイトルで社会的起業家を目指す若者のためのビジネスプランのつどいを計画、9月下旬に合宿、テストをしながら来年2月に最終審査をする。

これからも若者の起業や活動などを支援するため、いろいろな団体とかかわっていくつもりです。

まじろフォーレ

勇気の音るライブ

●ミッション

主に引きこもり経験者、精神障がい者といった、生きづらさを感じている方の自己表現の場をつくることで、自己肯定感を高め、新たな一歩を踏み出すきっかけになることを目指しています。

●設立

2008年、あまやさおりが、引きこもり支援の講演会で、引きこもり経験者のミュージシャンたなかきよつの「お休みの日」を聴き、「自分の抱えていた生きることがしんどい」と思いと同じだ」と

共感し、「生きづらさを感じている方たちは、きっと抱えているものが沢山あるはず。それを表現することで、自身の肯定になったり、同じような苦しみを感じている方に感動を与えられるのではないか？」と考えました。その想いをたなかに伝え、2009年春、勇気



の出るライブ実行委員会が設立されました。

●実行委員会

あまやさおり
たなかきよつ

●わたしたちの活動

梅小路公園内「緑の館」イベント室などで、ライブを行っています。京都を中心に活躍するミュージシャンの演奏はもちろん、引きこもり経験者といった、生きづらさを感じて



いる方が本人がステージに立つことに、私たちの活動の意義があると思っています。表現の仕方は音楽だけにこだわらず、何でもあり、なライブを行っています。語りや朗読、踊りでも、あり。予約もいらず、当日の気分で出演するかしないかも決められるなど、プレッ

チャーを少しでも低くする工夫をしています。

ライブを始めた当初は、「ステージに立つというのはハードルが高すぎるのではないかな？自己表現をしたいと思っているのだろうか」という不安もありましたが、それは見事にはずれました。1回目から必ず、数人の当事者がステージで表現活動をしてくださいました。先日のイベントでは、20組近くの出演希望があり、皆さん一生懸命に自身を表現してくださいました。「もっと歌いたかった」との感想も何人かから頂き、嬉しい悲鳴です。よく出演してくださいました方は、ステージに立つたびに堂々と、上手になっていくのがわかり、そこがまたこのライブの魅力でもあると思っています。

皆さまのご協力で先日、ライブ50回目を迎えることができました。これからも「自分を自由に表現できるあなたか場」として、あり続けたいと思っています。

電話 070-6515-9719

メール yuukinoderuraibu@yahoo.co.jp

URL <http://www.facebook.com/yukinoderu>

一年に一度のユースシンポジウム、14回目は9月29日午前10時から中京青少年活動センターで開催します。全体会では、さまざまなテーマで活動する若者たちが、活動への個人としての想いを語り合う「トークセッション」を実施します。第2部では来場者との対話の場「トークフリマ」、さまざまな表現で発信する「活動ブース」、社会テーマを共に考える「分科会」などを実施します。等身大の「いま」と若者が描く「未来の出会い」に立ち会いませんか？

*申込・問い合わせ：京都市ユースサービス協会事務局

075-213-3681（一般500円、青少年無料）

ボランティアとしての不安、子どもたちが将来を見通せるための支援のあり方など、学習支援の現場を踏まえた実践的な課題が論点になりました。

NPO法人山科靨



「子どもの貧困」を考える フォーラムを開催

貧困対策推進法の成立で盛況

山科青少年活動センター ユースワーカー 上原 裕介

山科青少年活動センターでは、6月30日（日）に「子どもの貧困」と学習支援フォーラム in 山科」を開催しました。6月19日の国会で子どもの貧困対策推進法が成立し大きな社会的関心事となったこともあり、関西地方だけでなく九州や東北など全国各地から定員を超える113人の参加があり、活発な議論が行われました。県立広島大学の田中聡子先生による基調講演では、「子どもの貧困」の定義や拡大の現状、その社会構造的要因が、豊富なデータをもとにわかりやすく解説された後、生活保護世帯の自立



支援プログラムとして広がっている学習支援事業の類型的な分析と、スタッフへのインタビュー結果が紹介されました。そして最後に子どもの貧困対策推進法の成立を受けた国、自治体の責務や学習支援事業の課題をまとめました。

基調講演を受けて分科会では、4つのテーマに分かれ、熱心な議論が繰り広げられました。学習支援に関わる学生ボランティアや福祉関係者が集まった分科会A「子どもの学びを支える若者たち」では、学習支援団体Atiasの日野貴博氏、日本福祉大学アンビシャス・ネットワークの平沢彩未氏からの報告を受け、学習支援と居場所的支援とのバランス、活動資金の確保や組織運営のむずかしさ、専門家ではない

地域団体の役員やNPO関係者が集まった分科会B「いま、地域ができること」では、京都市母子寡婦福祉連合会西京支部（学習支援会「ゆう」）の中川敏子氏、青少年の健全育成を考えるフォーラム（中3学習会「洛西スコレ」）の玉手優子氏から報告がありました。中川氏からは子どもたちだけでなく、ひとり親家庭のお母さんたちにとっても集いの場、語り合いの場になっていることが報告され、玉手氏からは、大学生ボランティアを地域の民生児童委員がコーディネートすることで、大学生が安心して子どもと関わっている様子が報告されました。

学校関係者や大学生が多く集まった分科会C「学校から見える「子どもの貧困」」では、京都府教育委員会スクールソーシャルワーカーの長澤哲也氏、元養護教諭の所朱美氏から、今の学校現場の状況が伝えられました。それを受けてグループ討議では、教育と福祉をつなぐスクールソーシャルワーカーへの期待や、子どもの貧困対策事業と学校との連携のあり方、保健室にくる子どもたちの生活についてなど、さまざまな議論が展開されました。

酬こどものひろばによる子どもの生活支援をクローズアップした分科会D「子どもの生活を支えるNPOの挑戦」では、まず「子どもの貧困」をリアルに感じ取るために貧困ライン以下の金額で生活のやりくりを考えてみるワークが行なわれ、その後、同法人の幸重忠孝氏から生活支援事業で出逢った子どもたちの様子が映像記録とともに報告されました。

自由参加のフリーディスカッションには、参加者の半数以上がその場に残り、各分科会での議論を共有するとともに、分科会よりも少数のグループでざっくりばらんな討論が行なわれました。新たな出逢いや交流がいくつも生まれ、参加者それぞれに「日頃の実践に活かせることが見つかった」「新たなつながりができて刺激を受けた」と充実感を得ることができ、盛会のうちに終了しました。

まあ！すてきな若者施設 今秋も3カ国を継続視察

山科青少年活動センター チーフユースワーカー 横江美佐子

法政大学社会学部の平塚眞樹教授を代表に諸外国の若者政策をテーマにした教育学、社会学など幅広い研究調査を進めているグループが、昨年が続いて、今秋も3カ国を訪問します。これには、青少年の自立支援をめざす公益財団法人 京都市ユースサービス協会のユースワーカーも参加し、各国の青少年施策の視察、現地のユースワーカーらと交流、意見交換します。ここでは、昨年に訪問したフィンランド、ヘルシンキの女性施設「ガールズハウス」の印象をお話します。

「こんな施設で働きたい！」

ロビーには、ゆったりソファが配置され、ガラスのショーケースが並び、その横には小さなアンティークなレジスター。まるでおしゃれなカフェの一角を思わせるスペース。その奥にブルーやグリーンで統一された6畳ほどの小部屋が3つ、ゆったりと友だちとおしゃべりを楽しめそうな雰囲気。さらにその奥には、ムーミンのキャラクターのイラストが壁に掛けられた大きめの部屋。さすがデザイナーの国フィンランド！と声を出してしまっただほどの空間を前に「本当に青少年施設？」。ヘルシンキの街中にある若い女性



性を対象にした施設「ガールズハウス」。ロビーでは、時折、カフェがオープン。小部屋は相談ルーム、リラクセスして相談できる配慮がなされています。そして、ふわふわラグが敷かれた大きめの部屋の片隅には、ベビーベッドがあります。そう、子育て中の10代ママのための部屋。その他にも、キッチンやクラフト・手芸ができる工房、ダンススタジオなど、日本の青少年施設におなじみの設備が整っていました。



持ち込まれる多様な課題

この誰もがリラックスできそうな空間に少女たちのさまざまな問題が持ち込まれるという。施設職員は「男の子はアクティヴする。その行動をみて抱えている問題をつかみやすいけど、女の子は追い込まれるまで話さない」「家族の形態が変わり、父親不在の家も増えている。従来の女性観が失われ、今までにない問題が起こっている」と、女性を対象にした青少年施設の特徴を説明した。その他にも移民の受け入れを背景にした問題への対応で「宗教によっては、女性は家にいることがよしとされ、結婚前の恋愛は、少女たちの命を危険にさらすこともある」。親とちがう文化の中で育つ少女たちへのサポートは欠かせない。また、学校になじめない10代の妊娠や出産など持ち込まれる課題は多様だ。

ユースワーカーが燃えつきないために

ユースワーカーが疲弊しないために、ここではさまざまな取り組みが行われていた。一つ目は、チームで出来事をしていねいに語りあうこと、必要に応じて専門家からスーパーバイズを受けたり、支援者のためのセラピーの場が準備されている。ワーカーの1人は「大切なことは、少女たちの人生と、自分の人生をわけること」そういいながら、手で身体を払うしぐさをした。「仕事での出来事はここに置いて帰る。ドアを出たら気持ち切り替えられるようにしているの。」

「ガールズハウス」に入入りする少女たちは、ユースワーカーとの関わりを通して信頼できる大人と出会う。そして、仲間との出会いを通して、しんどさを自ら乗り越える経験を積み重ねていく。ユースワーカーは、そのプロセスの伴走者なのだ。

「ガールズハウス」の取り組みは、少女たちの10年、20年後を考えながら展開されている。だから簡単にそこでの成果を数字で測ることはできない。ヘルシンキでは「ガールズハウス」の運営が一定の成果をあげていることを受けて、男の子たちを対象にしたユースセンター「ボーイズハウス」が2011年にオープンしている。次の展開に結びつくこと、そこにどんな工夫があるのか。この秋9月に再度、海外研修に参加します。この取組を身近な若者の未来に向けて、豊かな発展につなげたいと思います。



| 日程 | 行程 | 泊 |
|---------|---------------------------------|----------------|
| 9月3日(火) | デンマーク・コペンハーゲン着 打ち合わせ | コペンハーゲンホテル泊 |
| 4日(水) | コペンハーゲン(行政、公的機関、現地研究者と情報交換) | 同上泊 |
| 5日(木) | 午後フン島へ移動(フリースクール、教員養成学校訪問) | フン島フリースクールの宿舍泊 |
| 6日(金) | 同上 | 同上泊 |
| 7日(土) | コペンハーゲンからイギリス・リーズへ(ユースセンター視察) | リーズホテル泊 |
| 8日(日) | 自由行動 | 同上泊 |
| 9日(月) | リーズのユースワーク | 同上泊 |
| 10日(火) | リーズからマンチェスターへ(マンチェスターのユースワーク見学) | マンチェスター泊 |
| 11日(水) | イギリスからフィンランドへ | ヘルシンキホテル泊 |
| 12日(木) | フィンランドのユースワークの実践評価他 | 同上泊 |
| 13日(金) | 同上 | 同上泊 |
| 14日(土) | 帰路 | 機内泊 |
| 15日(日) | 日本着 | |

[2013 年度視察日程]

青少年活動センターのページ

第23回大会ライブキッズ 右京ふれあい文化会館で初開催！！

第23回大会を、3月16日(土)・17日(日)に初めて京都市右京ふれあい文化会館(京都会館休館中のため)で開催しました。大会には各部門応募総数約60組の中からDANCE部門24組とMUSIC部門11組計約170人が出演者として選ばれました。当日は、ストリート、ロック、ジャズ、ヒップホップ等さまざまなジャンルのダンサーが勢いのあるダンスで観客を魅了、ポップス、パンク、和風ロック、弾き語り等の個性溢れるミュージシャンも自分たちで作った曲を力強く披露しました。2日間で延べ約1,400人が来場し、何度か入場制限を行うほど賑わいました。



会館ロビーではスタッフ企画ブースや、当協会・センター紹介ブース、右京保健センターブースを出展しました。

次回の第24回大会ライブキッズは、平成26年3月15日(土)・16日(日)に同じ右京ふれあい文化会館で開催を予定しています。

(中京青少年活動センター ユースワーカー 國府宙世)

【ダンス部門 受賞チーム】

| 賞 | チーム名 | 部門 |
|------------|---------------|-----|
| 中高生部門グランプリ | DOUBLE ? | 中高生 |
| 一般部門グランプリ | SOUL LIMIT | 一般 |
| 審査員特別賞 | Laugh ☆ Bloom | 中高生 |
| オーディエンス賞 | DOUBLE ? | 中高生 |

【ミュージック部門 受賞バンド】

| 賞 | バンド名 | 部門 |
|------------|-----------|-----|
| 中高生部門グランプリ | fu-kore | 中高生 |
| 一般部門グランプリ | シンガロンパレード | 一般 |
| 審査員特別賞 | WEED | 中高生 |
| オーディエンス賞 | シンガロンパレード | 一般 |



京都市右京ふれあい文化会館

「野菜を育てて、働くことに近づこう」 第2クール実施！

京都若者サポートステーションと連携した就労体験プログラム「野菜づくりから仕事に近づく～働きながら、働くことを考える13週間～」が、5月7日(火)からスタートしました。

この事業は、週3回の農作業(左京区岩倉の農場/約150坪での野菜づくり)と週1回の研修(コミュニケーションについて考えるグループワークと、野菜の販売計画づくり)で構成しています。草刈りに始まって、種まきから育苗、水やり、収穫、販売までの一連の仕事をすべて体験し、「自らの強みに気づく」「規則正しい生活リズムを身につける」「チャレンジ精神を養う」ことをねらいとしています。

昨秋の第1クール(昨年10月～12月)では冬野菜を育てましたが、今回第2クール(5月～8月)ではキュウリ、トマト、カボチャなど11種類の夏野菜に挑戦しています。

参加者は、22歳から39歳までの男女4人。少人数なので農作業はハードですが、地域若者サポーターと一緒に育てています。

最初は、自分のしている作業に実感が持てなかった参加者も、まいた種が発芽し、ぐんぐん育てて花を咲かせる様子を見て、達成感や充実感を味わっています。ちょうどこの冊子が発行される頃には、立派なおいしい野菜が収穫でき、参加者が就労に向けた一歩を踏み出していることを願っています。

(北青少年活動センター チーフユースワーカー 大熊晋)



全体研修会 ポジティブな働き方を考える

6月12日(水)に東山区の「きよみず」で行った京都市ユースサービス協会の職員全体研修会は60人を超える職員が出席しました。今回のテーマは「ポジティブに仕事をする働き方を考える」。私たちの組織が果たすべき役割は多岐にわたり、複雑化しています。「組織」がより活性化し一丸となる前提として「個人」が一層前向きな仕事に取り組んでいくことが必要と、この主題が設定されました。

事務局長から組織の現状や問題提起がされた後、経歴や日常生活と仕事のバランスも異なる職員が、全体の場でそれぞれの考えを語り合い、理事からもコメントをいただきました。仕事に積極的、ときに青少年と楽しく向き合っていくために、一人ひとりが、組織が、何をすべきか。今少しずつ新しい風が吹こうとしています。

(南青少年活動センター チーフユースワーカー 川崎崇)



ユースから版

事業レポート

地域で活動中!

北青少年活動センター「地域活性ボランティア」では、毎月1回のセンター周辺の清掃活動に加えて、地域で行われるイベントのお手伝いをしています。6月2日(日)に行われた「北区民ふれあい春まつり」では、楽しみながらゴミの分別を学べる「ゴミの達人ゲーム」でブース出展してきました。当日は、子どもだけでなく大人年代の方も、「これはどこに分別したらいいんやろ〜?」と相談しながら楽しんでいただきました。



フリーマーケット in みなみ

6月23日(日)に南青少年活動センターでフリーマーケットを開催しました。応募総数54件の中から、青少年による6店舗を含む合計20店舗の出店をしていただきました。ロビーでは、大学生によるパフォーマンスやセンターボランティア、高校生ボランティアによる喫茶、子どもの遊びコーナーなどが行われ、家族連れ、お年寄り、中学生など地域の方々が集い、にぎやかな一日となりました。



つながりカフェ「ゆるかも関西活動報告会」

NPO法人かものはしプロジェクトの学生部「ゆるかも関西」が、5月19日(日)に活動報告会を行いました。参加者は18人。昨年6月に新しく立ち上げた団体で、「カンボジアでの児童買春問題」について、日本の学生に伝えるために大学での授業プレゼン活動や国際協力関係のイベント参加を行っています。

伏見青少年活動センター「つながりカフェ」では、さまざまな人が出会い、交流できる空間としてロビーを使った、青少年からのイベント持込み企画を募集しています。



フットサル大会「KOBATY CUP」を開催しました!

下京青少年活動センターでは、スポーツルームフリータイムが中学生・高校生に人気です。なかでもフットサルが熱い!!高校生がフットサル大会を呼びかけて、6回目を迎えます。5月26日(日)は、新日の5チームがエントリーし、優勝チームは「F E Y」。大会は、2か月に1回、実施しています。ひとりでもグループでも参加可能、多くの方の申込みをお待ちしております。お気軽に、「しもせい」までお問い合わせください。



「中学生のスポーツタイム」

山科青少年活動センターを利用するきっかけ作りとして、中学生にスポーツルームを開放する「中学生のスポーツタイム」という事業を6月まで行って行っていました。学校が違う中学生グループが、同じ空間で卓球をしました。初めは緊張していた中学生も、何度か参加するうちにセンターを身近に感じてくれているようで、中スポ以外でもセンターに足を運んでくれるようになりました。

今後もセンターを利用する入口となる事業を展開していき、活気づくような事業を行なっていきたいと思います。



相次ぎ中3学習支援

中京青少年活動センターでは6月28日(毎週金曜日午後6時30分~8時)から同センターで6番目の中3学習支援を始めました。立命館大学の学生サークル「APOLON」と協働して中核的な役割を担ってもらい、中京センターで募集したボランティアや地域若者サポーターの協力を得ながら運営しています。

また伏見区醍醐地域の中3学習会は、7月2日から醍醐地区でスタートしました。山科醍醐こどものひろばと京都市ユースサービス協会、醍醐福祉事務所が連携して、コーディネーターやボランティアの力を借りながら学習支援に入っています。

事業案内

自然に親しむ③「シャワークライミング」

北青少年活動センターでは、気軽に自然に親しむ機会をつくっています。今回は、溪流を下流から上流に向かって登って行きます。滝を乗り越えたり、滝壺にジャンプしたり、プカプカ水面に浮かんだり、流されたりしながら、全身ずぶぬれになって水辺の遊びを満喫します!未経験者でも安心して参加してもらえる機会です。インストラクターが、楽しく&丁寧に、自然との付き合い方、遊び方を教えてください。ぜひ、気軽に申し込んでください。9月下旬実施予定です。



第4回「はじまるさろん」を開催します



「はじまるさろん」は、地域若者サポーターの方とともに、子育てや子どもの自立に悩む保護者の方や社会(学校や職場、友人関係など)とのつながりを求めている方のご家族、自立に悩む若者を支えている皆さんが、お茶を飲みながらゆったりと語り合う場です。

日時は9月14日(土)午後2時~4時、場所は伏見青少年活動センターです。気軽にご参加ください。

子ども・若者支援促進事業に9団体を採択

NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業の選考会を行いました。この事業は平成23年度からユースサービス協会が京都市の委託を受けて行っているものです。外部委員2人を含む5人の選考委員により行われ、企画資料と面接の厳正な審査の結果、独自プランを準備し応募した次の9団体が採択され、最高50万円が助成されることが決定しました。

※親子支援ネットワーク「あんだんて」、京都ARU、京都教育サポートセンター、恒河沙母親の会、社会適応支援協会(新規)、まちの縁側クニハウス&まちの学び舎ハルハウス、山科醍醐こどものひろば、勇気の出るライブ実行委員会、若者と家族のライブプランを考える会。

「しもせいフェスタ」を実施します!

下京青少年活動センターの魅力を発信するお祭り「しもせいフェスタ」を10月5日(土)に、実施します。地元商店街との連携企画や青少年のパワーを発信するステージやブース、青少年に身近な問題を取り上げた啓発コーナーなど、「しもせい」の魅力を体感できる楽しい企画が盛りだくさんです。ご家族・お友達をお誘い合わせのうえ、ご来場ください。

交流サロン「hana cafe」

南青少年活動センターでは、基本毎月第1・3土曜日に交流サロン「hana cafe」を行います(申込不要)。自由に参加でき、ゆっくり過ごすことができます。また、ゲストを呼ぶこともあり、さまざまな方との交流も楽しめますので、ぜひご参加ください。カフェや料理が好きで、お手伝いをして頂ける方も募集中です。詳しくはセンターまで。

「ぐるっとふれ愛まちフェスタ」

今年も山科の地域に根付いたお祭りを11月4日(祝)に開催します。山科青少年活動センターでもブース企画や模擬店出店を計画中です。また、インターシップの大学生も数か月前から準備を進め、できることを考えています。地域のなかで生活をしている、ということを若者も感じられるように、センターも一緒に盛り上げていく予定です。

本誌『ユースサービス』の掲載広告を募集します!

公益財団法人京都市ユースサービス協会が編集制作刊行の情報誌「ユースサービス」は、若者とともに若者の現状や未来を考える媒体として、好評を得ています。

〈広告掲載料金 オールカラー掲載〉

| | |
|-----------------------------|-----|
| 全1ページ(縦25.6センチ×横20.9センチ) | 5万円 |
| 横1/2ページ(縦12.8センチ×横20.9センチ) | 3万円 |
| 記事下1/4ページ(縦6.4センチ×横20.9センチ) | 2万円 |

広告掲載のお問い合わせ、お申込みは、

京都市ユースサービス協会事務局

(電話 075-213-3681、Fax 075-231-1231) まで。

次回、12月1日付発行の17号への広告掲載申込は9月末日までお願いいたします。

ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

7つの青少年活動センター

北青少年活動センター

住 所：〒603-8165 京都市北区紫野
西御所田町56 北区総合庁舎西庁舎3階
T E L：075-451-6700
F A X：075-451-6702
U R L：http://www.ys-kyoto.org/kita/

中京青少年活動センター

住 所：〒604-8147 京都市中京区東洞院通
六角下御射山町262
T E L：075-231-0640
F A X：075-231-1231
U R L：http://www.ys-kyoto.org/nakagyo/

東山青少年活動センター

住 所：〒605-0862 京都市東山区
清水5丁目130-6 東山区総合庁舎2階
T E L：075-541-0619
F A X：075-541-0628
U R L：http://www.ys-kyoto.org/higashiyama/

山科青少年活動センター

住 所：〒607-8086
京都市山科区竹鼻四丁野町42
T E L：075-593-4911
F A X：075-593-4916
U R L：http://www.ys-kyoto.org/yamashina/

下京青少年活動センター

住 所：〒600-8871
京都市下京区西七条北東野町90
T E L：075-314-5636
F A X：075-314-5640
U R L：http://www.ys-kyoto.org/shimogyo/

南青少年活動センター

住 所：〒601-8441
京都市南区西九条南田町72
T E L & F A X：075-671-0356
U R L：http://www.ys-kyoto.org/minami/

伏見青少年活動センター

住 所：〒612-8062 京都市伏見区
鷹匠町39-2 伏見区総合庁舎4階
T E L：075-611-4910
F A X：075-604-4910
U R L：http://www.ys-kyoto.org/fushimi/

開館時間 平日：午前10時～午後9時
日祝：午前10時～午後6時

休館日 水曜日・年末年始
(12/29～1/3)

子ども・若者支援室（子ども・若者総合相談窓口）

住 所：〒604-8147 京都市中京区東洞院通り六角下御射山町262 3階
T E L：075-708-5440 F A X：075-231-1231
開所時間：月～土曜日 10:00～20:00（水曜休み）、日祝 10:00～17:00
U R L：http://ys-kyoto.org/sodan/

京都若者サポートステーション

住 所：〒604-8147 京都市中京区東洞院通り六角下御射山町262 2階
T E L：075-213-0116 F A X：075-231-1231
開所時間：平日 12:00～20:00（水曜休み）、日祝 10:00～18:00
U R L：http://ys-kyoto.org/support/

発行

公益財団法人 京都市ユースサービス協会

〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下御射山町262

京都市中京青少年活動センター内

tel：075-213-3681 fax：075-231-1231

E-mail：office@ys-kyoto.org

HP：http://www.ys-kyoto.org

印刷：株式会社谷印刷所

デザイン：自然堂株式会社

